



# 美郷大使 永田 萌



昭和24年、兵庫県生まれ。絵本作家。「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、花と妖精をテーマとした夢あふれる作風で、絵本やエッセイなど150冊余りの著書を発表。画業40年を経た今も第一線で筆をとする。京都市子育て支援総合センターこどもみらい館館長、姫路市立美術館館長。

**合** 併十五周年おめでとうございます。私が美郷大使に任命していただいたから九年になりますが、美郷町さんとの最初の出会い、十四年前に文化庁の天然記念物委員会の視察で訪れた時でした。関西育ちの私にとって自然の豊かさや食物のおいしさはもとより、松田町長様はじめ町の皆さまのあたたかいお人柄にふれて、忘れ難い町になりました。その後六郷のカマクラの竹うちを見に出かけて以来、何度足を運んだことでしょうか。

一面の稲田に風が波を起こすように吹く様子に声をあげたり、ラベンダーの花畑の中で写真を撮ったり、どこまでも白い雪景色の続く光景に息をのんだこともありました。回を重ねることにお土産リストも充実し、必ず行

きたいお店も増えました。尽きることのない湧水のもたらす豊かな自然の恵みを感じるたび、まさに「美しい郷」の町だと感じ入ると共に、今では第二の北の故郷、と親しみを込めて大切に思っております。

小学校や幼稚園にも訪問させていただきましたが、生徒さんや園児さんたちのキラキラ輝く瞳やしっかりとたごあいさつに、地域のはぐくみ力の強さも伝わりました。

医療や教育、子育ての環境もとても充実していると聞きしています。これからの少子高齢化の時代に、行政の眼が隅々まで行き届く理想の町であってください。現在お住まいの方には「ずっと暮らしたい」、今は離れて暮らす方にも「いつか帰りたい」美郷町であり続けてください。

# 美郷大使 高階秀爾



昭和7年、東京都生まれ。美術史家・美術評論家。東京大学名誉教授で大原美術館館長、秋田県立美術館顧問を務める。平成24年には美術評論家としての初文化勲章受章。ルネッサンス以後の西洋美術を専門としながら、日本近代美術にも造詣が深い。平成27年、日本芸術院会員選出。

**私** の父が千屋村（現美郷町）出身であるので、小さい時からしばしば秋田を訪れる機会があった。戦争中は、二年ほど大曲町に住んで角館中学に通ったが、その時も、休みごとに千屋村に行き伯父のところまで世話になり、土間で勢いよく藁を食べる馬の姿を面白がったり、外に出て遠くゆるやかな屋根を見せる山なみとその前に広がる整然とした田んぼ、そしてそこから台所にまで流れて来る清らかな水の流れを楽しんだりした。冬になつてその姿全部が銀白の雪に覆われる景色も含めて、この多彩な自然のたずまいが、私のふるさとイメージとして心に残っている。

それと同時に、早く江戸時代から日本が西欧世界に強く関心を抱き、港長崎を通じて蘭学を学び、『解体新

書』の翻訳をはじめ、多くの新しい学術を取り入れ、豊かな成果をもたらしたことは忘れられない。その『解体新書』の挿図製作に携わったのが、わが秋田の小田野直武であり、その直武を中心にして、日本の美術史上でも特異な秋田蘭画という豊麗な花を開かせたことは、まさしく秋田の生み出した貴重な歴史遺産である。

これから令和の時代を生きる秋田の、特に美郷町の若い人びとに、このふるさとを美しい国土をしっかりと守り育て、それと同時に眼を広く世界に向けて、それぞれの分野で国際的に活躍することを期待したい。このふるさとを若者たちが、それだけの心とエネルギーを抱いていることを、私は信じて疑わない。